

## 陽春 インタビュー 2023

分譲マンションの建設を

通じて、自然環境と人との共生を目指した、潤いのある街並みづくりを進めています。建設業界は、前近代的なことが多く、朝が早く、休暇が少ない。現状も多変化に対応しながら、当社のマンションブランド「リバーガーデン」ならではの特色を生かし、入居者だけでなく、周辺住民にも喜んでもらえるようなマンション建設を進めています。

「建設を進めています。そうした中で、現在、力を入れていくのが、瑕疵をゼロに近くしていくこと。当社では自社一貫体制(用地の取得・企画開発・地質調査・設計・施工・工程)との作業をチェックする検査・販売・アフター)を確立し、建設期間の短縮や中間コストの削減につなげていますが、工事の過程で思わぬ不都合が生じることもあります。その場合、全力で即座に対応しています。

お客さまからクレームがあった場合には、「心を売る営業」をモットーに、誠実にファーストに対応します。「ピンチの時は、チャンス」ととらえ、誠実な対応で、逆に好感度を持ってもらえるような関係を築いていきたい、と考えています。

【リバー産業株式会社】  
本社 大阪府岸和田市沼町2番1号  
大阪本店 大阪市中央区久太郎町4-1  
3 大阪御堂筋ビル2階(旧伊藤忠ビル)  
電話番号 06(6282)0101

### 分譲マンションの建設を通じ潤いのある街並みづくりを

## リバー産業 河啓一社長



「仕事で大切なのはIQよりEQ」と語る河社長

# 建設業界の スターバックスを目指す

「建設業界のスターバックスを目指す」という意識を高めることで、品質の向上につながっていくと思います。

この発想から考え出したのが緑視率です。平面(図面)の緑化率でなく、自動車や歩行者からの人の目線が基本にした、視覚に入る緑の量(緑視率)を重視していき、と考えるのが、現在ある借景を活用しながら、自然豊かな潤いのある生活環境を生み出すように工夫を凝らしています。

国土交通省の調べによると、緑視率が25%以上になると人は「緑が多い」と感じ始めるようですが、JRユニバーサルシティ駅前の「リバーガーデンシティ」の調査地点では86・0%の緑視率を記録しています。

私が緑視率の言葉を使い始めて三十数年になります。今年、関西の企業・団体、他社に先駆けて取り組んだパイオニアとして誇りを感じています。

このほか商品力アップに向けて知恵を絞っており、週刊ダイヤモンド(2022

### 河啓一氏プロフィール

全国展開の大手デベロッパーに佐して独自の戦略を打ち出し、「現場主義」に基づいたアイデアと行動力に多くの人々が一目を置く。現場へは自ら作業着姿で行き、職人たちに声をかけ、励ます。衛生面や収入面の改善などに気を配り、シャワーを完備したりしている。社会貢献活動にも熱心で、大阪のイルミネーションや子どもの貧困対策推進の基金に寄付しているほか、マンションを周辺住民に災害(津波など)避難ビルとして一部開放したり、「なんばセントラルプラザリバーガーデン」では隣接の駅前広場を整備し、市民に喜ばれている。紺綬褒章を16回(法人として14回、個人として2回)受章している。85歳。